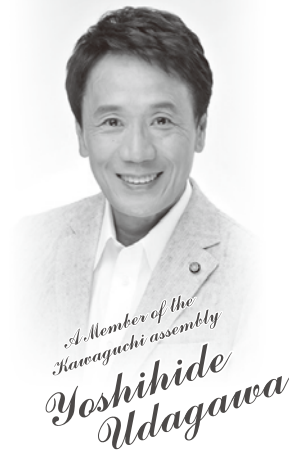


討議資料

宇田川よしひで

市議会ニュース

vol.90
2021年10月



「沢山の人の沢山の幸せを見たいから
今までもそしてこれからも頑張ります」

令和3年第3回

9月市議会定例会

市政に関する報告

所信と報告から

令和3年9月6日～

9月29日までの24日間

市長提出議案

今議会に提出された議案は、予算議案2件、条例等の一般議案25件です。予算議案につきましては、一般会計において、新型コロナウイルスワクチン接種事業等に係る41億7446万3千円の補正、また特別会計では、介護保険事業特別会計において、6205万5千円の補正です。一般議案については、「川口市個人情報保護条例の一部を改正する条例」など、条例議案8件、契約議案5件、訴えの提起議案3件、専決処分の承認議案1件、一部事務組合

の規約変更議案1件、決算認定議案4件、人事議案3件です。更に、9月17日緊急を要するコロナ対策関係の一般会計補正予算議案15億6712万3千円（P5※1参照）が追加提案されました。また更に、9月29日コロナ禍の経済対策の一般会計補正予算9億8023万3千円が追加提案されました。

新型コロナウイルス感染症について

本市においては、9月5日までに、9687名の方が陽性となり、89名の方がお亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を表しますとともに、治療中の方々に心からお見舞いを申し上げます。また、感染者への対応が長期化する中、大切な命

を守るため、絶えず最前線でご尽力いただいております。医療従事者の方々などに、心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。市民の皆様、事業者の皆様にも、感染状況により緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置の発出、期間延長が繰り返され、そのたびに不要不急の外出自粛、営業時間の短縮、感染防止などにご理解とご協力を賜り、重ねて感謝申し上げます。今年の7月以降、従来のウイルスよりも感染力が強い「デルタ株」に置き換わり、県内及び国内の感染者数も連日のように過去最多を記録し、急激な入院患者等の増加により、医療提供体制は極めて厳しい局面を迎えています。

本市でも、1日の新規感染者数が、過去最大の298人を記録するなど、第4波をはるかに

超え、直近1カ月では、1日に100人を超える日が20日を超えている状況です。こうした状況を打破し、新型コロナウイルス流行前の生活を取り戻すためには、市民の皆さんに一日でも早く、一人でも多くの方にワクチン接種をすることが最善策です。ワクチン接種は感染拡大の防止はもちろんのこと、最大の経済対策であり、ひつ迫している医療提供体制の改善などに繋がるものと考えます。

「川口モデル」による ワクチン接種状況について

5月末にワクチン接種の「川口モデル」を構築し、接種を強力に推し進めているところです。毎月、約17万7千回の接種を目標に掲げ、6月まで

の接種は約18万6千回、7月の接種は約19万2千回実施し、目標を達成し順調に接種を進めていましたが、国のワクチン供給量が減少したため、8月の接種は約9万3千回と目標を達成できませんでした。9月にはワクチン供給量が大幅に増えることが見込まれることから、再び、大規模病院や川口市医師会のご協力をいただきワクチン接種の体制強化を図って参ります。

感染者等の対応 について

自宅療養者が日々増加しており、それに伴い食事や病状の変化などの不安を抱えている市民も増えております。こうしたことから、食料品やパルスオキシメーター等を配布

しました。更に、市民の不安の軽減を図るため本市独自に、血中酸素飽和度が低い方に対して、酸素濃縮装置を貸し出し、川口市医師会のご協力をいただき遠隔診療や訪問診療などの体制を整備していきま

選ばれるまちづくりに ついて

◆中核市への移行

市民に身近な市が保健所を設置したことで、医療機関との連携による医療提供体制の構築や、全国に先駆けての医療機関等への支援など、本市の

実情に応じた新型コロナウイルス感染症対策を本市主導で迅速に実施することができ、市保健所のメリットが最大限発揮されました。

◆経済対策

市内企業の製品を、市内外の企業や市民等に「市産品フェア」の開催をはじめ、公共工事への市産品の活用及び市内事業者への優先発注に積極的に取り組み、「地産地消」を基軸とした市内経済好循環の創出に努めました。

◆子育てしやすいまち

民間保育所の整備を促進する市独自の補助を実施するなど、保育施設の整備を積極的に進め、待機児童を大幅に減らすとともに、小児夜間救急診療体制の整備や、近年の気候変動による猛暑に対応する

ため、市内全小中学校へのエア
コン設置など学習環境の向上
にも努めました。

◆まちの賑わいの創出

再開発事業や、区画整理事業の促進、災害に強いまちづくりのために雨水貯留施設の整備等、都市基盤整備にもこれまで以上の予算配分を行い、地域の特性に合ったまちづくりを実施してきました。加えて、こうした事業を着実に実行するために市税収納率の向上に努め、財政基盤の正常化を図り、市税は市長就任以来7年間合計で406億円の増収になり、一般会計当初予算も、過去最高額を更新しているところです。

◆「本当に住みやすい街大賞2年連続で受賞」

本市のまちづくりが総合的

に高く評価されており、市内におけるマンションや戸建て住宅の建設促進にも繋がりが、全国的には人口減少の局面の中、人口増加が続いている要因となっているものと考えています。こうした転入者の方々などが市税収入の増を後押しして、バブル期以来で年度途中における市税額の補正としては、過去最高の34億円もの増額補正となったものと考察します。

新庁舎の建設状況について

新たな立体駐車場の令和4年度の完成を目指し、現在、旧本庁舎駐車場等の解体を進めているところです。市民窓口を集約する2期棟は、第二本庁



新庁舎の建設状況

舎と連絡通路で結び、立体駐車場からも直接繋がる2階に、最も来庁者の多い市民課を配置するなど、利用しやすい動線計画とするほか、来庁者が手続きや相談をしている間、子どもを一時的に預かるための託児施設や1階には郵便

局やカフェの設置に向けた検討を進めているところです。令和6年度の完成を目指し、今後も、利用しやすく、市民に親しまれる庁舎となるよう、安全対策に万全を尽くしながら、工事を進めます。

川口市立高等学校 について

昨年12月のアリーナ棟の完成に続き、第1校地のグラウンドが完成しました。鮮やかな青が印象的な全天候型の400m陸上トラックと、トラック



川口市立高等学校

内側には美しい緑色の人工芝を備えたグラウンドは、各種陸上競技、サッカーやハンドボールなどの競技を行うことができます。さらに、砂入り人工芝のテニスコートを4面備えるなど、全て実戦に近い環境で練習ができる施設です。

イイナパーク川口に ついて

子どもたちが自然とのふれあいの中で、学びや気付きが得られる環境学習の場として、動植物の生態系に配慮した樹木管理・除草等を行うなど、生物多様性に富んだ自然環境の保全・創出を図っており、さらに多くの方々にご来園いただき、都市近郊における貴重な自然を見て・感じて・楽しめる施設です。また、屋内遊具施設や休憩所などのハイウェイオアシスの施設建設につきましましては、躯体工事が完了し、現在、内装工事や駐車場整備を進めているところで、令和4年度の開園に向けて取り組みしております。

戸塚環境センター施設 整備事業について

昨年8月、川口市戸塚環境センター施設整備事業者選定委員会に、事業者からの提案審査などに関する事項を諮問し、去る7月5日に答申を受けたところです。ごみ処理施設は、私たちの日々の暮らしに欠くことのできない施設であることから、整備には、技術的に成熟した信頼性の高い焼却方式を採用し、様々な災害対策を講じ、非常時にも自立運転が可能なシステムとするなど、安全で安心な施設の建設と運営を目指すこととしています。また、極めて大規模かつ長期的な事業となりますことから、事業者の技術力だけ

でなく、地元経済への貢献を最優先に掲げました。これにより、本事業では建築、土木、電気設備工事やプラント機器の製造のほか、運営管理などにおいて、110億円以上もの市内事業者の活用が見込まれており、市内経済への大きな波及効果が期待できます。さらに、綾瀬川に隣接し、周辺に貴重な自然が残された立地を活かし、敷地内には、エコロジカルネットワークの一環として、様々な樹木を植樹した環境学習の場を設けるほか、市民の憩いの場となる温浴施設等を整備する予定です。

※これまでのレポートは市長の所信と報告を抜粋加筆して作成しております。

江川第3調節池工事(その1)について

準用河川江川流域内の治水安全度の向上を図ることを目的として、調整池を安行慈林地内に整備するもの。今回の工事の規模は総額約7億2,122万5千円です。

事業概要

- ①工事場所 安行慈林字下村中900-2番ほか28筆
- ②貯留量 約11,000m³ 用地面積9,033m²
- ③工事概要 掘込式による調節池整備工事
- ④完成予定 令和8年3月
- ⑤事業費総額 約14億円
- ⑥江川第3調節池工事(その1)
 - 工事期間及び費用 令和3年度 1億623万7千円
 - 令和4年度 3億3,717万2千円
 - 令和5年度 2億7,781万6千円

※1 9月17日緊急を要するコロナ対策関係の一般会計補正予算

1. 集団接種会場の開設延長に要する経費(11億5,281万1千円)

集団接種会場(旧そごう)の開設期間の延長4か月・10月22日⇒2月28日

2. 新型コロナウイルス感染症対策に係る経費2億1,431万2千円

①往診、遠隔診療に係る市独自の協力金2,745万円

自宅療養中の感染者に対して、保健所の調整により往診、遠隔診療を行う市内の医療機関に対し、市独自で協力金を支給するもの。

②自宅療養者に対する酸素濃縮装置の貸与575万円

自宅療養者に貸与する酸素濃縮器のリース料や、医薬消耗品に係る経費。

③保健所業務に係る人材派遣や委託拡充1億8,111万2千円

感染者の急増により、保健所業務がひっ迫しているため、人材派遣を拡充するほか、保健観察業務を24時間態勢に拡大するための委託内容をみなおすもの。

3. 予備費の増額 2億円

新型コロナウイルス感染症や災害発生時に迅速に対応できるよう増額するもの。なお、酸素ステーションについては、速やかに設置するため、令和3年度当初予算の予備費で対応しているもの。

川口市酸素ステーションの運用について

市内に市独自の酸素ステーションを整備し、運用を開始しました。

- ①開設日時／9月13日(月)9時00分
- ②場 所／市内に1か所 施設の性質上、場所については非公開
- ③運営体制／24時間態勢 10床 医師(往診)、看護師1名以上、事務員1名
- ④対 象 者／新型コロナウイルス感染症の陽性診断を受けて、自宅療養を行っている方で、保健所及び医師の判断で酸素ステーションの利用が必要であると判断された方
- ⑤内 容／酸素投与・往診または電話による診察・定期的なバイタルチェック・食事の提供



酸素ステーション



酸素ステーション

酸素ステーションの概要についての議会質問における市長コメント(抜粋)

新型コロナウイルス感染症については、従来のウイルスより感染力の強いデルタ株に置き換わり、市中感染が急速に広がり、新規感染者は医療機関への入院や宿泊療養施設に入ることができず、多くの方が自宅療養を余儀なくされていたところです。

こうした自宅療養者の中には、急激な病状の悪化や、血中酸素飽和度が低く、息苦しさを訴えるなど、不安な日々を過ごす方がおりました

こうした状況を打破するために入院調整をしている間、一時的な待機場所である市独自の酸素ステーションの設置が急務であると考え、9月13日から運用を開始したものです。

編集発行

川口市議会議員

宇田川 好秀

埼玉県川口市安行1117

TEL.048-294-3131 FAX.048-296-7070

印刷/コスモプリンツ株式会社

市政情報
発信



<http://gakkainavi.com/udagawa/report.html>

宇田川レポート更新中!!